

英語

英語科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
英語の特徴や決まりに関する事項を理解したり、実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、その内容を捉えたりする力を付ける。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報や概要、要点を捉える力を付ける。

生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年 <ul style="list-style-type: none"> • 英文を書く際に、文頭を大文字にしたり、単語と単語の間にスペースを置いたりするなど基本的な決まりを理解していない生徒が多い。ア • 情報量が多いリスニングでは、質問に応じた答え方に難しさを感じる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> • 授業内で使用するワークシートの、エラー訂正を含めたフィードバックを継続していく。また、ワークシートやワークブックの間違い直しを徹底させる。ア • 授業内で教員が英語を使用する割合を高め、生徒同士の簡単な英語でのやり取りをさらに増やしていく。イ 	<ul style="list-style-type: none"> • 9月～2月の2コマに一度 • 9月～2月の毎時間 	
第2学年 <ul style="list-style-type: none"> • 日記やメール文などまとまった文章の読解力および基礎的な英作文の力が身に付いていない。ア • ストラテジー能力が身に付いていない。またそのアイデアを想像することができない。イ 	<ul style="list-style-type: none"> • 単語・連語の小テストおよび英作文小テストを行う。またワークシートの内容を工夫し、記述する問題を増やす。ア • 教師の姿勢として、生徒の学習状況や理解力を把握し、理解が不足していると思われるときには易しい英語で言い換えたりジェスチャーを交えて生徒に伝えようとしたりする姿勢を積極的に示す。イ 	<ul style="list-style-type: none"> • 2学期～3学期各単元終了後 • 2学期～3学期 	
第3学年 <ul style="list-style-type: none"> • ほとんどの生徒が英語を自発的に書いたり、話したりすることに抵抗は少ない。一方で正確性に欠ける生徒は多い。ア • 決められた状況や場面に即した内容を考えて話すことはできる生徒が多いが、即興性に欠ける。イ 	<ul style="list-style-type: none"> • ワークシートを活用して生徒が作った英文を添削しその都度フィードバックをしていく。ア • 毎回の授業の中で、即興的に話す機会を設け取り組ませると同時に、全体での共有を行い、生徒間でのフィードバックを実施する。イ 	<ul style="list-style-type: none"> • 2学期、3学期の間2コマに1回 • 2学期～3学期 	

<p>■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <p>1年 パフォーマンステストに向けた資料作成・発表。</p> <p>2年 Google Slide を活用したプレゼンテーション。</p> <p>3年 パフォーマンステストに向けた資料作成・発表。</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <p>1年 ワークシートのフィードバックとふり返りシートの活用。</p> <p>2年 グループ内でお互いの記述（作品）を見合い、改善点を話し合う。</p> <p>3年 グループ内での意見交換・ワークシート活用。</p>
--	---

